

## 小・中・高校におけるクリティカル・シンキングの育成とは

日本教育心理学会第52回大会（早稲田大学）2010年8月29日  
シンポジウム  
「クリティカル・シンキング—  
小・中・高等学校における教育実践の発達の検討」

無藤 隆（白梅学園大学）

### 0. クリティカル・シンキングを巡る歴史を少しだけ

- 30年以上前から論じられている
- クリティカル(井上)。
- 言語技術(木下)。
- デイベート(松本)。
- 大学の作文教育(芳賀)。
- この15年ほどの変化
- メタ認知により教育の発達の基礎を求める。
- スキルを重視するようになった(基礎的基本的な知識・技能)。
- 自己制御学習が自己教育力の基礎となる。
- コミュニケーション力をそれとして教えることが増えた(中野)。
- 現在の動き
- 教育でもエビデンスを求めるようになった。
- 実践的研究者と研究的実践者が増え、実践的かつ実証的研究が増えた。
- 思考の言語的表現を重視するようになった(言語力,PISA読解力)。
- 感情の制御・統制を重視するようになった。
- 学習指導と生徒指導を結びつける(「生徒指導提要」文部科学省)

### 1. 思考を育てるとは

- 思考とは異なったことを結びつけること。
- 背景にあることを浮かび上がらせることで、結びつきが広がる。
- 結びつきの根拠を検討することが思考を深める。
- 思考を見直すことがメタ認知であり、そのメタ認知が学校教育とともに発達する。
- メタ認知は思考の技法を身につけることで安定して使われるプロセスとなる。

### 2. 再吟味する過程を導入する

- メタ認知の過程を再吟味する行動として具体化する。
- 他の人や自分の文章を読み返すという習慣をつけるだけで役立つ。
- 様々な手立ては書く前のアウトラインの作成を促す。
- 実行の前の計画・構想と実行後の見直し・再検討をプロセスとして位置づけ、実行との循環過程を作る。

### 3. 文章の目標に応じて吟味し直す

- その文章を使う目標を意識する。
- 目標の違いに応じて文章の読み方・書き方を変えることを試みる。
- 特定の目標に応じての再吟味を行う。
- 多様な文章に触れるようにする。

### 4. 相手から批判を受ける

- 相手から理解や賛成といったフィードバックを受けて、直す。
- 批判を予想して用心する。
- 批判に対してあらかじめ反論できるようにする。
- 敵対的関係ではなく、ゲーム性(ディベート)や協同学習(学び合い)としていく。

## 5. 文章を直してもらおう

- 書いたものを直してもらうことで再吟味の仕方が分かる。
- 自分の読みの仕方を他の観点から補ってもらおう。
- 書き入れられたところが再吟味の指摘となって、再度それを組み入れて検討し直す。

## 6. 目標とテーマと主張に応じた文章を書く

- 事実と信念・推測・主張や感情と論理を分けるといったことは文章の目標に応じた区分である。
- その文章のジャンルに応じて書き方があり、その文章の構成要素が決まり、文を要素に合わせて構成する。
- 主張を明確にする文章は重要なジャンルであり、主張を論拠により支えるようにするための教育が必要である。

## 7. 教科横断的思考力の育成としてのクリティカル・シンキング

- 思考力とは、(教科内容を捨象した場合には)考慮する基準や論拠を明確にすることである。
- いくつもの基準や論拠を自覚して、調整し合うことが思考力の発達であり、それにより評価規準(評価スタンダード)を作る。
- クリティカルシンキングはそういった思考力を技法化するものである。

## 8. 授業過程におけるクリティカル・シンキング

- 授業過程においてクリティカルなあり方を強調する。
- 相互の価値づけから離れて、その話題そのものを論じ、多様で深い理解を進めるクラスの風土を作る。
- 対話過程において考え、学び、再び自分で考える。
- 授業において進めるフォーマットを開発し、実施する。日頃の授業へと発展させる。

## 9. 実験的な検証によるエビデンスを示す

- 実験的な検証によりクリティカルシンキングの授業フォーマットや技法の導入の何が有効かを調べる。
- 事前・事後と実験群・統制群の比較(出来ればランダム割り当てによるRCT)を行うべきである。
- 安定して使えることをフォローアップで確認する。
- 他の場面での有効性の一般化を検証する。

## 10. クリティカルなあり方の発達の時期による特徴

- 幼児期から小学校低学年の時期において、感情制御が発達する。
- 小学校中・高学年においてメタ認知と行動制御が発達する。文章の書き方を学ぶ。
- 中学校において、型の中に自覚化を入れ込む。また本気で感じ考えることの言語化を進める。
- 高校において、ジャンルによる違いを学ぶ。豊かな知識ベースの活用を知る。